

目的

対象の健康障害が生活に及ぼす影響を理解し、対象が必要とする看護を考え実践できる基礎的能力を習得する。

目標

1. 受け持ち対象の情報をを用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる。
2. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる。
3. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる。
4. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる。
5. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる。
6. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる。
7. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる。
8. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる。
9. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる。

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
1. 受け持ち対象の情報をを用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる	1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる 2) 基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる 3) 疾病や入院が対象の精神面にどのような影響	(1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報収集 ・対象、家族、看護師との会話から情報収集 ・診療録・看護記録からの情報収集 ① 対象の生活背景 ・入院前の生活様式・生活習慣、生活環境、家族、職業 ② 入院前の身体的・精神的・社会的側面の情報収集 ③ 診断名・現病歴・既往歴 入院時の状態・入院から受け持つまでの経過、対象・家族への説明内容と受け止め方 ④ 症状・検査結果・バイタルサイン・治療方針・治療内容 ⑤ 対象の日常生活行動と自立度 入院後の一日の生活様式 (2) 入院生活や疾病に関する対象の反応 ① 表情、態度、症状、行動の観察	a. 疾患に関する解剖生理、病態を学習 b. 疾患の学習は、病名からだけでなく、その疾患のために身体の中のどの部分に障害があり、生活にどのように支障が生じているのかを考える c. 看護過程の展開方法は授業を振り返り想起しながら進める d. 受け持ち対象の情報を整理 ・対象の疾患の概要と症状を関連付けて考える ・対象の入院前の生活 ・生活習慣と疾患の関連 e. 疾患が及ぼす精神的・社会的影響と生活への影響を考える f. 基本的欲求の未充足を常在条件、病理的状态と関連付け未充足の原因誘因を探る

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	を及ぼしている か理解できる 4) 疾病や入院が 対象の社会面 にどのような影 響を及ぼしてい るか理解できる 5) 基本的看護の 構成要素 14 項 目に沿って情報 を分類・整理で きる 6) 情報を関連付 けて基本的欲求 の充足状態を解 釈・分析できる 7) 関連図を用い て対象の全体像 を捉え看護上の 課題を示すこと ができる	②入院生活や病気、治療に対する 思いを知る (3) 疾病や入院による対象の社会 面への影響 ①余暇活動・人間関係の維持・経 済基盤などへの影響 ②家族内役割・社会的役割の変 化 (4) 基本的看護の構成要素 14 項 目の情報収集・分類・整理 ①呼吸・循環・体温 ②栄養 ③排泄④姿勢・活動⑤睡眠・休 息⑥衣類・清潔⑦環境⑧コミュ ニケーション⑨信仰・信条⑩達 成感⑪レクリエーション⑫学 習 (5) 基本的欲求の充足状態 ・充足した状態、未充足の状態 を判断する ・未充足状態の原因誘因を解釈・ 分析する ・対象の充足状態を示す ・看護の方向性を示す (6) 関連図の作成 ・未充足のニードに対して、他 のニードと関連させ、原因・ 誘因を描ける ・身体的・精神的・社会的側面か ら関連図を描く ・看護上の課題を示す	a. ヘンダーソンのアセスメ ントガイドを用い客観的・ 主観的情報を収集・分類・ 整理 b. 発達段階を踏まえ、対象の 生活の視点から考える c. 基本的欲求の状態を健康時 の状態や基準値、正常値、 日常性などと比較し未充足 の判断をする d. 収集した対象の情報の意味 を考え解釈・分析する e. 「体力」「意思力」「知識」 のいずれの不足によるもの か判断する a. 関連図の記載ルール従って 描く b. アセスメントした内容を対 象の身体的・精神的・社会的 側面の関連を考えて描く c. 看護課題を明らかにする 潜在的課題 顕在的課題
2. コミュニケ ーションを図 り、対象の反応 を捉えその意味 を考えることが できる。	1) 対象の状況に 応じたコミュニ ケーションを図 ることができる	1) コミュニケーションを図る ①適切な言葉遣いや会話の内容 を選択する ②会話をしながら、意図的に必 要な情報を得る ③対象に関心を向け、傾聴する 姿勢をもつ ④対象の状況(健康状態・検査 処置・面会者など)や日課・生	a. 関係構築のためのコミュニ ケーションの基本を復習す る ・言語的、非言語的コミュニ ケーション ・コミュニケーション技法 b. 場や時間の工夫 c. 傾聴・共感 d. 他者への関心

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	2)対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる 3)倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	活リズムを考えコミュニケーションの場、雰囲気作り、時間の工夫をする (2)対象の思いを知る ①対象との会話、表情、態度、行動を観察する ②対象の話す内容を正確に受け止め思いを知る ③不明な点は、必要時意味の確認をする ④対象の価値観を知る (3)思いやる行動がとれる ①対象の反応を捉え自己の行動を調整する ②説明と同意の確認 ③了解了承を得てから看護援助の実施をする ④対象の質問や要請に誠実に対応する ⑤プライバシーに配慮した行動をとる ⑥対象を尊重した態度で接する	e.状況や状態の把握と判断 a.対象の主観的情報は客観的情報と関連付けて解釈し対象の思いを受容する b.対象の表情や行動から言葉の意味を考える c.判断がつかない場合は指導者の助言を求める a.対象の価値観の尊重 b.信条を捉える c.対象のQOLを考える d.信頼関係、援助関係を成立させる e.ねぎらいの言葉掛け f.対応が困難な時、判断がつかない時は、指導者・教員へ相談し迅速な対応を図る g.プライバシーへの配慮
3. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる。	1)看護上の課題の優先順位を判断・決定できる 2)対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる 3)具体的な解決目標が設定できる 4)対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる	(1)看護課題とその優先順位を根拠をもって決定する ①マズローのニード階層 ・生命の危険度 ・対象の苦痛の度合いや希望 ・健康あるいは健康回復に及ぼす影響 ・あるひとつの課題解決が他の課題解決に及ぼす影響 (2)対象の看護目標と解決目標（期待される結果）を考える ①RUMBAの法則 (3)対象の看護課題を解決するための具体的援助方法を考える ・OP 観察計画 ・TP ケア計画 ・EP 指導/教育計画	a. マズローのニード階層から看護課題の優先度を考える b.根拠を持って看護課題の優先順位を決定する c.対象の看護目標は目安として退院時に望ましい姿を表現する d.看護目標は健康レベル、疾病・治療から今後の経過を予測して目標立てする e.期待される結果は対象の現在の状況を把握し、達成可能な身近な目標を考える（経過を予測した根拠のある設定） f.対象の変容を推測し評価日

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
		① 5 W1H ② 体力・意思力・知識の不足を補う計画 ③ 対象の希望・意向、自立度、日課、生活リズムに即した計画 ④ 予防的援助(潜在的課題) ⑤ 残存機能・持てる力を最大限に活用した援助方法 ⑥ 安全・安楽を考慮した援助 ⑦ QOL を考慮した援助	を設定する g. 看護計画は誰が見てもわかるよう 5 W 1 H で具体的に記載する h. 日常生活援助技術を中心に対象が必要とする生活援助の方法を考える
4. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	1) 目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている 2) 対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる 3) 対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる 4) 対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる 5) 全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	(1) 実施する援助 ・ コミュニケーション技術 ・ 観察技術 ・ バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント ・ 環境整備 ・ 清潔の援助 ・ 食事の援助・排泄の援助 ・ 寝衣交換・活動・休息の援助 (2) 状態観察・アセスメントから援助を実施してよいかの判断とその理由を示す (3) 実施する看護技術の原理原則を踏まえて手順を踏む：看護技術カードの作成 (4) 実施する援助の目的・方法を説明し同意を得る (5) 実施中の対象を観察して反応を捉える (6) 安全・安楽に向けての援助 ・ 対象の苦痛や体力の消耗を最小限になるように配慮する ・ プライバシーに配慮しながら実施する (7) 自立・個別性に配慮した援助 ・ 対象の ADL の自立、生活習慣、信条、嗜好などを考慮	a. バイタルサイン、身体の観察からフィジカルアセスメントをする b. 実施する援助に必要な技術の原理原則の学習 c. 対象への説明から後始末まで一連の看護援助を行う d. 実施する援助の目的・必要性・期待される結果・事後の影響を理解して対象に説明 e. 対象の理解度に合わせた説明方法を選択し同意を得る f. 対象の反応を見ながら実施 g. 安全・安楽・自立・個別性、プライバシーに配慮しながら実施 h. 誰に、いつ、報告すべきか判断 i. 看護技術カードを確認して対象に適しているか確認する j. 対象の状態に応じて、看護技術カードを更新する

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
5. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる	1) その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる 2) 目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考えることができる 3) 評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる	(1) 実施した看護援助の評価 ・ 援助の方法は対象に適していたか ・ 対象の安全・安楽への配慮ができていたか ・ 実施した援助の内容について対象の満足度・充足度・自立度の考慮ができていたか ・ 対象の反応を確認して実施できたか (2) 目標の達成結果を分析 ・ 目標が達成できた場合、効果があったものは何か ・ 目標が達成できなかった場合看護過程のプロセスをフィードバックし、原因を明らかにする (3) 日々の評価に基づき、援助内容・方法の検討を行う ・ 看護課題、期待される結果の達成度や解決策の評価	a. 対象の反応や結果を確認し、行った援助を振り返る b. 計画した援助を実施し、期待される結果が達成されているか確認する c. その日の援助内容を振り返りアセスメントし、その結果を翌日の行動計画に反映させる d. 看護計画の評価日の評価において、計画の終了か続行か修正かを明確する e. 課題解決に向け目標がどの程度達成されているか評価 f. 達成状況を根拠に基づいてアセスメントする g. 目標の達成度を判断する h. 計画の継続・修正・追加を判断する i. 看護目標の妥当性を考察する
6. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる	1) 感染予防のための行動がとれる 2) 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	(1) スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動の実施 ① 一処置一手洗いの実施 ② 手指衛生 ③ 便・尿・血液の付着したものの取り扱い (2) 個人防護用具 ① 手袋・エプロン・マスクの着用方法と外し方 (3) 医療廃棄物の分別方法 (4) 感染性廃棄物のバイオハザードマークに基づいた処理(分別)	a. スタンダードプリコーション b. 手指衛生の方法 c. リネン汚染(便・尿・血液) d. 病原菌による消毒薬の違い e. ディスポーザブル手袋、エプロン、マスクの着脱方法 f. 感染性廃棄物の分別と表示の確認 ・ バイオハザードマークの種別について g. 感染性廃棄物の取り扱い時の注意点
7. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる	1) 他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる	(1) 他職種との協働・連携場面に参加する ・ 病棟カンファレンスに参加している職種と内容の確認 ・ リハビリカンファレンスに参	a. 他職種チームとしての情報共有と継続的な関わり b. 看護師の役割を考える ・ 情報の共有 ・ 健康回復・維持するための

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
	2) チームの一員として責任ある行動がとれる	加している職種と内容の確認 ・栄養指導場面の見学 ・看護と介護の連携場面の見学 (2) 看護師の役割を考える (1) 誰に、いつ、報告すべきかを判断し、時期を逃さずに報告する (2) 自分で解決できない時、判断に迷う時は相談する (3) 対象の状態を事実に基づき客観的な表現を用い報告する (4) 場にふさわしい挨拶・身だしなみ・言葉遣いをする (5) 指導、助言を素直に聞く姿勢を示す (6) プライバシーに配慮し知り得た情報を外部に漏らさない (7) 実習メンバーと協力し学習を進める	支援 ・他職種間との調整役割 ・継続看護の重要性 a. 報告・連絡・相談 b. 情報の共有 c. 客観的・主観的情報 d. 守秘義務・プライバシーの保護 e. リーダーシップ・メンバーシップ f. 規律・規範を守る ・挨拶、身だしなみ ・言葉遣い ・約束事を守る ・自己の健康管理 g. 他者の意見を聴き入れ、自分の意見も伝える h. 学生間の協力・協調 i. 学生間の情報の共有
8. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	1) 自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる 2) 継続して学習する姿勢を有している	(1) 実習の目的・目標、実習方法を理解する (2) 学生自己評価表を用いて適切に評価す (3) 自己の課題を明らかにする (4) 目標を定め、課題を解決する方法を示す (5) 課題を解決するための行動を示す (6) カンファレンスで自己の考えを述べる (7) 自己の技術レベルを認識し積極的に技術練習を行う (1) 学習の習慣化 (2) 積み上げ学習 (3) 看護職としての自己研鑽の必要性 (4) 興味関心を示し主体的に学ぶ姿勢	a. 既習の学習が看護の実践で活用されていることを確認 b. 自己課題を持って学習に取り組む c. 目標達成に向け指導者・教員へ自ら助言を求める d. 文献・既習学習を活用し学習を深める e. 仲間に助言を求める f. 看護技術カードを作成し、必要時更新していく a. 自己の生活行動、学習行動の特徴や傾向を知る b. 自己の傾向を認識し行動を変容させる c. 変容した姿を他者にわかるように示す

目標	行動目標	実習内容	学習の視点
			d.常に既習学習、学習ノート 文献の活用をする e.看護学生倫理要領の意味を 理解する f.事前・事後学習に取り組む
9. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる	1)実習での学びから、看護に対する自分の思い考えを述べることができる	(1)看護に対する自分の思い、考えを論理的に相手に伝わるようカンファレンスで述べる (2)相手の意見を聴き、自分と他者の違いを知り、自己の学びを発展させる (3)リフレクションを行い、根拠を示し看護に対する自己の考えを記述する (4)理論の活用をする ナイチンゲール・ヘンダーソン	a.看護の過程を振り返り対象を通しての学びを整理する b.既習の知識や理論を基に、対象との関わりを分析し看護とは何かを探求する c.看護理論（ナイチンゲール・ヘンダーソン）を活かす d.看護の主要概念を確認する e.論理的思考を用いる ・帰納法・演繹法

実習方法

1. 対象の選定

- 1) 原則として成人期・老年期で慢性期・回復期にある対象。
- 2) 病態が複雑ではない。
- 3) 日常生活の援助を必要とする。
- 4) 言語的コミュニケーションが可能である。

2. 受け持ち学生ペアで共同学習

- 1) 対象 1 名に対し学生 2 人で受け持つ。
- 2) ペア学習における記録類の取り扱い。

	ペアで共有する内容	個人で取り組む内容
行動計画表	<実施計画> 実施項目・目的・大まかな方法	1. 具体的な実施方法（実施手順・観察点） 2. 実施した内容・結果、評価（考察）
看護技術カード	1. 実施する看護技術と実施目的 2. 実施する場所・必要物品・所要時間	1. 実施方法（観察含む）、根拠・留意点 2. 実施後の評価
看護過程の展開	1. S/O 情報 2. 未充足のニード項目 3. 看護上の課題と優先順位 4. 看護目標・期待される結果 5. 実施・評価の「期待される結果」の到達度	左記の内容を共有し、記録整理は個々で行う。

- 3) 看護援助は、互いに立案した行動計画表・看護技術カードを元に協力・役割分担し実施する。

3. 実習の進め方

分類	行動予定	学習内容	実習記録
事前準備・事前学習	1.実習全体オリエンテーション 2.基礎看護学実習Ⅱオリエンテーション 3.病棟の特徴、概要については担当教員よりオリエンテーションを受ける 実習施設の集合時間・場所の確認 4.実習準備学習の確認 5.看護技術の練習	1)臨地実習要綱 学生心得・注意事項を把握 2)基礎看護学実習Ⅱの実習目的・目標・実習方法を把握 3)病棟配置・ペア学生・担当教員を確認する 4)実習担当教員との打ち合わせ (1)グループリーダーの決定 (2)受け持ち対象の決定・基礎情報の受け取り (3)初日の行動計画表を提出して助言・指導を受ける ※学生二人で行動の時間配分、実習内容を打ち合わせして、具体的な動きをイメージし、個々で立案する 5)事前学習 (1)看護展開技術 授業での資料活用 (2)健康レベルの特徴、発達段階・発達課題 (3)疾患に関連した解剖生理・病態生理、検査・治療、看護 (4)看護技術の原理・原則、手順、実施の根拠・留意点 (5)日常生活援助の技術練習	様式1-1 実習開始の前週で提出させ添削する 様式1-2 ※自己学習ノート
病棟実習1週目	《実習初日》 9:00～ ・学生病棟挨拶 ・臨地実習指導者紹介 ・病棟オリエンテーション ・実習の説明と同意 ・受け持ち対象の決定 ・対象オリエンテーション ・受け持ち対象へ挨拶 ・受け持ち対象の情報収集、コミュニケーション ・看護援助の見学・参加 15:00～ショートカンファレンス ・本日の振り返り ・翌日の行動計画	※日常生活援助を行いながら、受け持ち対象の情報収集を行う 1)病棟への挨拶と学生紹介 2)病棟オリエンテーションを受ける ・構造・設備・特殊性 ・看護方針や体制 ・月間・週間予定 ・入院対象の特性 ・物品の保管場所や管理方法 ・記録物の種類と閲覧方法 3)受け持ち対象の紹介 ・対象紹介 ・今週のスケジュール ・病状・治療方針 ・禁忌事項 ・大まかな看護ケア 4)指導者と本日の行動計画内容の確認・調整 5)対象の病棟看護計画を確認 6)診療録・看護記録からの情報収集を行う 7)対象とコミュニケーションを図りながら情報収集 ・対象との意図的な関わりからの情報収集 ・個人情報保護法に基づく守秘義務の遵守 ・報告・連絡・相談 8)対象の看護援助・ケア計画を確認し、翌日から指導のもと日常生活援助を行いながら看護過程の展開学習を進める 9)ショートカンファレンスは学生が主体となり運行する ・本日の学びと、本日の目標の達成度 ・翌日の実施計画についての相談 疑問の解消	様式1-1 提出(毎日) 様式1-2 様式1-3 様式1-5 随時記録 2日目 様式1-3 朝提出 3日目 様式1-3 修正・追加 様式1-5 朝提出 4日目 様式1-5 修正・追加 提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習 1 週目	《実習 2 日目以降》 9:00～ ・行動計画発表 ・行動調整 ・前日～夜間の対象情報収集 ・実施計画に基づき看護ケアの実施 15:00～ショートカンファレンス 《木曜日》 15:30～ テーマカンファレンス 《金曜日》 9:00～16:00 学内学習	1)前日の実施した内容・結果・評価(考察)を踏まえた実施計画を立案する 2)生活援助を中心としたケアを通して受け持ち対象と関わり、ヘンダーソンの看護理論に基づき看護の思考過程を整理し、対象に日々実施している援助の目的・根拠を明確にしていく 3)実施計画は、対象のスケジュールに沿い立案し、情報と照らして、実施可能か考える 4)本日の看護目標の設定は、対象の期待される結果を考え、対象サイドに立った目標になっているか確認する 5)見学実施したいと考えている援助については、予め看護技術カードを作成して臨む ・日常生活援助技術を中心に対象に必要な生活援助を考える ・受け持ち対象の特徴を捉えることができれば、対象にあった技術を工夫し、必要時看護技術カードを更新していく 1)週末カンファレンス(木曜日): 事例検討 「テーマ: 看護上の課題と看護の方向性について」 2)司会などカンファレンスの運行は学生が主体的に行う	
病棟実習 2 週目	9:00～16:00 1 週目と同様 ・関連図 ・看護課題と優先順位の根拠 ・看護計画立案後は計画に沿って看護援助を実施 ・日々実施した援助を評価し個別的な援助を検討 《木曜日》 15:30～テーマカンファレンス ・実習中間評価 3者評価し3週目の課題を明確にする ※看護技術経験録の確認 《金曜日》 9:00～16:00 学内学習	※1 週目で得た情報から、身体的・精神的・社会的な側面を対象の概要を把握する(全体像の把握) 1)関連図から看護上の課題を明確にし、優先順位を決定する 2)優先順位の高い課題(上位 2 つ)に対して看護計画を立案する 3)対象の安全・安楽・自立を考え、具体的に OP/TP/EP を計画 4)看護計画に沿って根拠に基づき日常生活援助を実施し、実施したことを評価する 1) 2 週目週末カンファレンス(木曜日): 事例検討 「テーマ: 看護計画 看護目標と具体的看護援助について」 2) 中間評価(3者評価) ・学生、臨地実習指導者、実習担当教員それぞれ項目に沿って評価する ・実習目標の達成度と実習での自己課題を明確にする。 1)看護計画実施状況の確認 受け持ち対象の現在の状態と今後の予測されることを関連させながら必要な看護を導き翌週の実習計画に反映させる 2)中間評価から、後半の実習に向け自己課題に対する具体的取り組みを明らかにしておく	様式 1-6 様式 1-7 様式 1-8 提出 以降、随時修正・追加分を提出

分類	行動予定	学習内容	実習記録
病棟実習3週目	9:00～16:00 1・2週目と同様 ・評価日に期待される結果の達成度をアセスメント ・評価に基づき看護計画の修正（継続・修正・追加・終了の判断） ・対象の回復状態、症状に合わせ看護実践していく ・対象との援助的関係の形成を振り返る ・期待される結果の達成度を分析しその原因を考える ・看護目標の妥当性を考察 《病棟実習最終日》 15:30～ テーマカンファレンス 技術経験録の提出 病棟スタッフ及び対象に挨拶 《実習最終日》 9:00～16:00 学内学習	※2週目に立てた看護計画内容で、行動計画表が立てられているか確認 1)学生カンファレンスでの助言・指導を反映させる 2)看護計画に沿った実践を振り返り、評価し修正を試みる 3)中間評価から自己課題に取り組む 4)看護技術体験できなかった項目や不足の内容を考え、実践できるよう準備をする 5)期待される結果の達成度を判断する 6)達成ができた根拠、できなかった場合は看護過程のプロセスを振り返り原因を探る 7)看護目標の達成度・妥当性を評価する 3週目最終カンファレンス(木曜日)：事例検討 「テーマ：看護過程評価及び自分が行った看護に対する考え」	様式1～8 実施・評価 実習全記録 自己評価表 技術経験録 自己学習ノート リフレクションシート 出欠席簿
		※リフレクション（3週間の受持ち対象との関係を振り返る） 1)対象と自己との関係性について振り返る 2)対象の思いや考えを受け止め看護援助に反映できたかを考える 3)わからない点は質問し目標達成に向けて意欲的に取り組むことができたか 4)リフレクションシートに実施した看護を振り返り、考察し自己課題を明確にする	

4. 看護技術の経験

確実に実施◎ 実施(見学)○

	技術項目	水準		技術項目	水準
◎	バイタルサイン測定	実施	◎	清拭・洗髪・手足浴	実施
◎	病床環境の整備・調整	実施	◎	食事の準備 食事配膳・下膳	実施
◎	ベッドメイキング	実施	◎	車椅子・ストレッチャー移乗・移送	実施
◎	リネン交換	実施	◎	移動(体位変換)	実施
◎	手指衛生	実施	○	シャワー浴	実施
◎	医療廃棄物の処理方法	実施	○	排泄援助(床上排泄)	実施

5. 看護過程展開のスケジュールと基礎看護学実習Ⅱ記録用紙一覧

様式No	用紙名	スケジュール 提出期限
1-1	行動計画表	毎日朝
1-2	看護技術カード	毎日朝または更新時
1-3-1	基本情報(常在条件)	実習2日目
1-3-2	基本情報(病理的状态①)	
1-3-3	基本情報(病理的状态②)	
1-4	フローシート	毎日朝
1-5	アセスメント用紙	実習1週目木曜日
1-6	全体像(関連図)	実習2週日月曜日
1-7	看護上の課題 優先順位の根拠	実習2週日月曜日
1-8-1	看護計画用紙(看護目標・解決目標・具体策)	実習2週目火曜日
1-8-2	看護計画用紙(実施・評価、看護目標の評価)	実習3週目木曜日
1-9	引用・参考文献一覧表	実習3週目金曜日
1-10	リフレクションシート	実習3週目金曜日

6. 実習記録・その他 提出時の綴り方

<クリアファイル>

- 上から
- 1) 学生自己評価表 (原本)
 - 2) リフレクションシート (コピー)
 - 3) 看護学実習評価アンケート (学生用)
 - 4) 臨地実習出席簿
 - 5) 看護技術経験録

<実習ファイル>

上(表紙) 【提出記録と綴り順番】



1) リフレクションシート(様式1-10 原本)

2) 学生自己評価表 (コピー)

3) 学習行動自己評価表

..... ※ 1)～3) は、各々クリアブックに入れる.....

4) 行動計画表 (様式1-1) 前から日付順に綴る

5) 看護技術カード(様式1-2) 技術項目別にクリアブックに入れ、新しい日付が一番上になるように重ねて入れる

6) 基本情報 (様式1-3-1~3)

7) フローシート (様式1-4)

8) 看護過程アセスメント用紙 (様式1-5)

9) 全体像(関連図) (様式1-6)

10) 看護上の課題・優先順位の根拠 (様式1-7)

11) 看護計画用紙 (様式1-8-1~2)

12) 引用・参考文献一覧表 (様式1-9)

..... ※ 4)～12) には、インデックスをつける.....

10) 自己学習ノート

下

基礎看護学実習Ⅱ評価表 【 学生自己評価 】

		学籍番号		学生氏名					
実習施設	病院	病棟	実習期間	平成 年 月 日～ 月 日					
No	評価項目						中間	最終	割合
Ⅰ. 受け持ち対象の情報をを用いてアセスメントをして、看護上の課題が明確にできる									
対象の理解	1	基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる							
	2	基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる							
	3	疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる							
	4	疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる							
	5	基本的看護の構成要素14項目に沿って情報を分類・整理できる							
	6	情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる							
	7	関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる							
Ⅱ. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる									
係援の助成	8	対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる							
	9	対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる							
	10	倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる							
Ⅲ. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる									
看護計画立案	11	看護上の課題の優先順位を判断・決定できる							
	12	対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる							
	13	具体的な解決目標が設定できる							
	14	対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる							
Ⅳ. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる									
日常生活援助	15	目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し同意を得ている							
	16	対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる							
	17	対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる							
	18	対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる							
	19	全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる							
Ⅴ. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる									
評価	20	その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる							
	21	目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考えることができる							
	22	評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる							
Ⅵ. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防行動が実施できる									
予感防染	23	感染予防のための行動がとれる							
	24	医療廃棄物の処理法の実践を理解できる							
Ⅶ. チーム医療に参加して、他職種との連携の必要性がわかる									
のチーム員	25	他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる							
	26	チームの一員として責任ある行動がとれる							
Ⅷ. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる									
研自鑽己	27	自己の課題解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる							
	28	継続して学習する姿勢を有している							
Ⅸ. 看護の実践を通して看護のあり方を考えることができる									
の看護立観	29	実習での学びから、看護に対する自分の考えを述べるができる							
【評価基準】							評価点	点	
5：できる(助言をほとんど必要とせずに行える)							4：だいたいできる(助言をすればできる)		
3：努力を要す(繰り返し助言をすればできる)							2：助言してもできないことが多い		
0：助言してもできない									
							時間数	／90	
自己評価									

基礎看護学実習Ⅱ 評価ガイダンス

分類	評価項目	評価内容	評価基準
対象理解	Ⅰ. 受け持ち対象の情報を 用いてアセス メントをし て、看護上の 課題が明確に できる	1. 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件についての情報を捉え、対象の生活背景が理解できる	1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件の情報を分類・整理できている 2) 対象の生活背景(家族・職業・生活習慣・生活環境など)の特徴を捉えることができている 3) 発達段階・発達課題の特徴と対象の個別性を関連付けて述べる事ができている
		2. 基本的欲求を変容させる病理的状态を捉え、対象の身体面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 基本的欲求を変容させる病理的状态の情報を分類・整理できている 2) 対象の健康レベルを理解できている 3) 病理的状态から、疾病の原因・症状、治療・検査が理解できている 4) 対象の疾病や障害の経過、現在の状態・自立度を捉えることができている
		3. 疾病や入院が対象の精神面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 対象の入院生活に対する思い、疾病や治療に対して感じていることを述べる事ができている 2) 入院生活や治療が対象の精神面に及ぼす影響について述べる事ができている
		4. 疾病や入院が対象の社会面にどのような影響を及ぼしているか理解できる	1) 疾病や入院により、対象の社会面(就労生活・家庭生活・余暇活動・人間関係の維持・経済基盤など)への影響について述べる事ができている 2) 対象の家族内役割・社会的役割の変化を述べる事ができている
		5. 基本的看護の構成要素 14 項目に沿って情報を分類・整理できる	1) 健康状態のアセスメントに必要な客観的・主観的情報を収集し、基本的看護の構成要素 14 項目の情報を分類・整理することができている
		6. 情報を関連付けて基本的欲求の充足状態を解釈・分析できる	1) 対象の入院前の生活習慣と現在の生活行動の比較、健康時の状態や標準値と比較し、基本的ニーズの充足・未充足を判断することができている 2) 未充足ニーズに対して他のニーズと関連させ、原因・誘因の解釈・分析ができている 3) 未充足の原因・誘因を体力・意思力・知識のいずれの不足によるものか判断することができている 4) 充足するため日常生活援助が考えられ看護の方向性を述べる事ができている
		7. 関連図を用いて対象の全体像を捉え看護上の課題を示すことができる	1) 対象の身体的・精神的・社会的な側面を統合し関連図を描くことができている 2) 未充足ニーズの結論を踏まえ、対象の現状から必要としている看護課題を抽出することができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
援助的関係の形成	Ⅱ. コミュニケーションを図り、対象の反応を捉えその意味を考えることができる	8. 対象の状況に応じたコミュニケーションを図ることができる	1) 対象へ適切な言葉遣いや内容の会話ができている 2) 会話の中から意図的に看護に必要な情報を収集できている 3) 対象に関心を向け、傾聴する姿勢で接することができる
		9. 対象の表情・行動・言葉のもつ意味を考え、対象の思いを知ることができる	1) 対象との会話・表情・態度・行動を観察し対象の思いを述べることでできている 2) 話の内容を正確に受け止め、必要時意味を確認することができる
		10. 倫理観に基づき対象を思いやる行動がとれる	1) 判断・行動する際には、相手の了解了承を得ることができる 2) 対象からの質問や要請に誠実に対応することができる 3) 対象の話を真剣に聴き、心情を思いやることでできている 4) 対象を尊重した態度で接することができる
看護計画立案	Ⅲ. 日常生活上の課題の看護計画が立案できる	11. 看護上の課題の優先順位を判断・決定できる	1) 看護課題の優先順位の根拠を記載することができる 2) 看護課題の優先順位を決定することができる
		12. 対象の健康レベル、今後の経過を予測し、看護目標が設定できる	1) 健康レベル、疾病・治療から今後の経過を予測することができる 2) おおよその目安として退院時に望ましい対象の姿を表現することができる
		13. 具体的な解決目標が設定できる	1) 期待される結果として身近な目標を設定することができる 2) 援助による対象の変容を推測して評価日を設定することができる
		14. 対象に必要な日常生活上の援助計画が立てられる	1) 対象の個性(年齢・性別、習慣・嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活の援助を考えることができる 2) 対象の病状・症状・自立度に応じた援助の方法を考えることができる 3) 対象にとって安全・安楽な方法を考えることができる
日常生活援助	Ⅳ. 立案した看護計画に沿って日常生活援助が実践できる	15. 目的・必要性・期待される結果及び事後の影響について対象の理解状況に合わせた方法で説明し、同意を得ている	1) 実施する援助の目的・必要性・期待される結果・事後の影響を理解することができる 2) 対象の意向も確認しながら、反応を捉え説明することができる 3) 対象の理解度に合わせた説明方法を選択し、同意を得ることができる
		16. 対象の状態を把握し実施してよいか、方法の変更が必要か、中止すべきかの判断ができる	1) フィジカルアセスメントにより、対象の状態や変化を常に把握することができる 2) 対象の状態から実施してよいかの判断をすることができる

分類	評価項目	評価内容	評価基準
日常生活援助		17. 対象の看護技術を原理・原則に基づき安全・安楽に実施できる	1) 援助にあたり実施前に本人であることの確認を十分行うことができている 2) 準備・施行・後始末の各段階を原理原則、科学的根拠に基づいて実施することができている 3) 対象の個別性(年齢・性別、病状、習慣・嗜好、心理状態)に応じた方法で日常生活援助を実施することができている 4) 観察・実施したことの事実を報告することができている
		18. 対象の反応を見ながら技術の実施方法を調整できる	1) 対象の意向や生活様式を尊重した方法を工夫し実施することができている 2) 実施中、対象の表情や言動を観察・確認しながら実施することができている 3) 対象の状態に応じて実施方法を調整することができている
		19. 全過程でプライバシーを考慮しながら、その技術を実施できる	1) 不必要な露出を避け実施することができている 2) 対象の人格を尊重し、理解・受容した態度をとることができている 3) プライバシーの保持・守秘義務を理解して行動することができている
評価	V. 行った援助を振り返り、評価・修正ができる	20. その日に実施した援助を事実と根拠に基づいて評価し、援助の変更・継続ができる	1) 行った援助に対して対象の反応を捉えることができている 2) 安全・安楽の視点から実施した援助を評価することができている 3) 自立・個別性の視点から実施した援助を評価することができている 4) その日の評価内容を反映させ翌日の行動計画を立案することができている
		21. 目標の達成度を分析し達成できた・できなかった場合の原因を考えることができる	1) 期待される結果と照らし合わせて、目標の達成度を判断することができている 2) 目標が達成できた場合、援助行為の何が、何故良かったのかを明確にすることができている 3) 目標が達成できなかった場合、看護過程のプロセスを振り返り原因を明確にすることができている
		22. 評価に基づき必要時、看護計画の修正ができる	1) 科学的根拠に基づき評価した結果から、看護計画(看護上の課題、目標、具体策)の継続・修正・追加をすることができている 2) 看護目標の妥当性を考察できている
感染予防	VI. スタンダードプリコーションに基づいて感染予防	23. 感染予防のための行動がとれる	1) 手洗い・擦式消毒の実施ができている 2) 一処置一手洗いの実施ができている 3) 指導の下、便・尿・血液など感染対象物を適切な方法で取り扱うことができている

分類	評価項目	評価内容	評価基準
	行動が実施できる	24. 医療廃棄物の処理法の実際を理解できる	1) 廃棄物の性状に応じたバイオハザードマークを理解することができる 2) 指導の下、施設の方法に準じた医療廃棄物の処理が確実に実施できている
チームの一員	Ⅶ. チーム医療に参加して他職種との連携の必要性がわかる	25. 他職種との連携・調整において看護師の役割がわかる	1) 他職種との協働・連携場面に参加し看護師の役割を述べるができる 2) 対象を取り巻く人々の連携や継続看護の重要性を表現できている
		26. チームの一員として責任ある行動がとれる	1) 正確な状況報告・伝達と時間の調整ができている 2) その場に応じた挨拶・身だしなみ・言葉遣いができている 3) 相手の指導・助言を素直に聴くことができる 4) 対象のプライバシーに配慮し、知り得た情報を外部に漏らさない 5) グループメンバーとして協力・協調がとれている
自己学習・自己研鑽	Ⅷ. 看護実践において自らの課題に取り組むことの重要性を理解し、能動的で主体的に行動できる	27. 自己の課題の解決、目標達成に向けて積極的に取り組むことができる	1) 実習の目的・目標、実習方法を理解できている 2) 自分で実施したこと振り返りができている 3) 自己の課題を示すことができる 4) 課題に取り組むことができる 5) カンファレンスで自分の考えを述べるができる 6) 技術習得に向けて積極的に取り組むことができる
		28. 継続して学習する姿勢を有している	1) 事前学習・事後学習に取り組むことができる 2) 文献を用いて学習をすることができる 3) 学習ノート作成とその活用をすることができる 4) 必要時、看護技術カードの更新をすることができる
看護観の確立	Ⅸ. 看護の実際を通して看護のあり方を考えることができる	29. 実習での学びから、看護に対する自分の考えを述べるができる	1) 看護を実践したなかでの気づき思いを述べるができる 2) カンファレンスで自分が行った看護を相手に伝わるように述べるができる 3) 対象との関わりを通して学んだことを記述することができる